

# かいはつ 20号

## 岡崎市特殊教育 推進協議会

平成元年3月3日発行  
(題字 山中小6年)



◎工場見学／葵カメラでの説明会



男川小学校長

林 勝 巳

### 教えありて 類無し

今朝のことである。開発学級の子どもたちが訪れた。開発学級の子どもたちが訪れた。開発学級の子どもたちが訪れた。開発学級の子どもたちが訪れた。

「これをみんなで作りました。先生にあげます。」

見れば、版画の手作りカレンダーと、花びん敷きである。

この子どもたちは、この一年間それぞれに伸びたなあと感じるころ。Aは、相手や他人のことが分かるようになり、Bは、背た

けも伸び、ことばも身についた。Cは、Dは、等々。

どんな子どもにも、人間として価値あるものを内在しているという

ことを、あらためて知らされた思いがする。教師や親の責任とは

何かと、厳しく問い直さねばならぬわけである。

「教えありて類無し」と論語にある。もともと人間に種類がある

わけではない。だれであつても、その教育次第で立派になることができるといふ意味である。特殊教育

のわかれわれの歩む道である。

今年度、本市特殊教育部に画期的な事態が相ついで。長年にわたる障害児教育活動が認められて岡崎市教育文化賞受賞、先導的にも言える中学校特殊学級進路指導委員会の運営と推進、特殊教育部の発行、手作りの実践記録集編集、各学校間での交流活動の広がりなど枚挙にいとまがない。

いずれも、責任と負託に應えるため、自主的、積極的に取り組もうとする熱意の発露である。もつとも、これを支援し、御指導を賜っている教育長さんをはじめ教育委員会、市当局、関係諸団体のお力もまた大きい。ありがたい限りである。

燃えあがったこの灯をいよいよさかんにすることが、平成元年度のわかれわれの歩む道である。

# 卒業



## おめでとう

例年になく暖かな冬が過ぎ、いよいよ卒業の時期がやってきました。小学校六年生のみなさん、中学校三年生のみなさん、おめでとうございます。

「平成」のはじまりとともに、新しい時代がやってきました。これまでお世話になったかたがたへの感謝の気持と、これからの新しい生活への意気込みを胸に、力強くはばたいていってください。

### 小学校の思い出と

#### 中学への期待

三島小 六年

小学校六年間でたくさんさんの思い出ができました。鼓笛パレードでは商店街を歩いて、緊張しました。運動会の組み立て体操は、二時間続きの練習で疲れました。修学旅行も楽しかったです。

五年生の時、新校舎ができたので、作業がたくさんありました。机やオルガンをさげるのに苦勞しました。できた校舎は、木造校舎

に比べて立派でした。

中学では、忘れものや欠席をしないようにしたいと思います。勉強も難しいし、期末テストとかもあるのががんばります。

小学校でいろいろなことをがんばった気持を忘れないで、中学校へ通いたいです。

### とんで行くほど

#### うれしい

葉中 三年

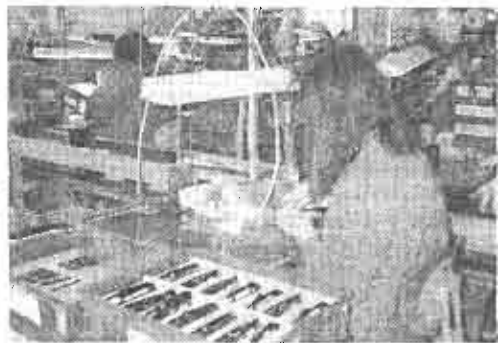
ぼくは、「友だちは就職が決まったのに、何でまだかなあ。」と心の中でいらいらしていました。家では「就職が決まったら、向こうの人の言うことをよく聞くんだよ。」と言われました。ぼくは、それを決まっからだと思っていました。

お菓子を作る工場で、実習をしました。見学した時、年が多い人も、大阪弁みたいな言葉の人もいました。社長さんが「お菓子は好きか。」と聞かれたのに、あがって、「いいえ。」と反対を言っていました。実習は真剣でした。実習のあと、採用通知が来ました。校長先生にもらった時、空までとんで行くほどうれしかったです。がんばって仕事をして、百万円ためるぞ、と思っています。

### わたしのしごと

甲山中 卒業生

私はカメラで働いています。今やっている仕事はカメラのカバーをはめる前に黒いゴムを穴の中に入れてから、ビスを四つしめます。一日中、この仕事のくりかえしです。ベルトコンベアーに乗って運ばれてくる部品を運べないように、はめていくのです。初めは黒いゴムがなかなかはいらなくて、すごく難しかったけど、今は、もう簡単にできるようになりました。だから、またそのうちに仕事が変わりそうです。新しい仕事になった時が、一番苦しいです。ベルトコンベアーの流れに合うように仕事をしなければなりません。それがとても難しく慣れるまで大変です。でも、これからはがんばっていきなさいです。



### 特殊学級

#### 卒業生の

#### 進路状況

本年度から、市特殊教育進路指導委員会が発足し、担任間の情報交換や、担任と職業安定所との連携がより密にできるようになった。ここ数年の進路状況を見ると、養護学校の希望者が増えていることがわかる。特に今年も、希望者が多かったため就職等へ進路を変えた生徒もいる。この傾向は、今後も続くと考えられるため、養護学校の定員増、高等養護学校の開設が望まれている。

本年度から、市特殊教育進路指導委員会が発足し、担任間の情報交換や、担任と職業安定所との連携がより密にできるようになった。ここ数年の進路状況を見ると、養護学校の希望者が増えていることがわかる。特に今年も、希望者が多かったため就職等へ進路を変えた生徒もいる。この傾向は、今後も続くと考えられるため、養護学校の定員増、高等養護学校の開設が望まれている。

進路 年度	進 学					訓練校		就 職		在 宅	計
	附 養	安 養	岡 養	岡 養	専修学校	春日台	その他	就 職	授産所		
60	4	1			4	5		12	2	2	30
61	2	4			2	2		12			23
62	2	3			5	2		10			22
63	3	8	1	2	2	4		10	2	1	34

やることも重要だろう。

# 工場見学

## 社会見学

前日までの雨もあがり、春を感じさせる陽気の二月九日。中学校特殊学級事業所見学会が行われました。午前中に三菱自工、午後からコース別にオカメラ、マキタ電機、オカザキ製パンの見学です。ピカピカの車に歓声をあげる子。真剣にメモをとる子。そして、熱心に見学され、質問される保護者の方。生徒たちの進路決定に役立つ意義深い見学会でした。

### 工場見学をして

矢北中 二年

二月九日に工場見学に行きました。バスがむかえにきてくれました。バスにのったら、ほかの学校の子が「おはよう」と言ってくれました。

まず、みつびし自動車工場へ出発。みつびし自動車でせつめいを聞いたり、スライドを見た



マキタ電機の見学

りました。いよいよ工場見学に行きました。車の部品がいっぱいありました。ロボットもありました。びつくりしました。仕事の人が、いっしょうけんめに車をつくらせていました。むつかしそうななとも思いました。

おべんとうを食べたら、今度は、オカザキパンの工場です。パンやさんだと思っていたら、機械がいっぱいあってびつくりしました。たくさんの人が仕事をしています。

ぼくも来年は三年生です。中学を卒業して、仕事をする事になったら、いっしょうけんめいがなりたいと思います。



竜美丘小 志賀忍先生

### 県特殊教育推進連盟表彰

#### 推進連盟表彰

県特殊教育推進連盟結成十年を記念した、第十回県特殊教育振興大会が、さる一月十四日名古屋市教育センターで開催されました。その場で、特殊教育の充実発展に二十二年間にわたって尽力された志賀忍先生が、表彰を受けられました。おめでとうございます。

### 感謝するのみ

志賀 忍

特殊教育にたずさわるようになって二十二年を経過しました。私の教育生活の半分以上になります。こんなに水い間担任できたことを大変ありがたく思っています。

ちに何一つとして満足のいくことをしてこなかったことをわびなければならぬ私です。こんな私に水い間、子どもさんを任かせてくださった親御さん方に深く感謝しなければなりません。

広幡小、南中、竜美丘小の三校で七十余名の子たちと学んできました。初めの子たちはもう二十才も半ばに達しています。

一年一回の年賀状などで元気に過ごしていることやがんばっている様子を知らせてくれる子も数多くいます。自分の人生を精いっぱい歩んでいる子等の姿が日に浮んできます。「先生もがんばれよ」と、どこからともなく聞こえてきます。

### 学級スナップ

#### なわとびができるようになったM男

細川小

クラスで、なわとびができるのは、T子一人である。M男は、とびたいが、とび方がわからない。とべないので、興味も関心も、示そうとしない。なぜとべないのかと、分析してみると、手と足の

回す→とぶの、バランスが、リズムにいかないことがわかった。そこで、もう一本なわを用意し、一本のなわを、二つ折りにしたものを、両手に持たせ、「左手の回し方がおそいよ、速く回すように。」と励ましながら、とばせた。とべるようになると、一本のなわで練習。八回とべた、十四回とべたM男の得意そうな顔、順。

後続部隊ができる事を願う。



# 偶感

——つとめて止むな——

古井 正晃

日先生が普通学級と同じプリントを使ってテストを実施してみたら、S君が九十六点をとった。人間には特質があるものだと感じた。日先生は栄進のため特殊担任を離れることになったが、後任者がなく困っておられた。到底日先生の足元にも及ばない私だが、特殊担任となった昭和四十九年のことである。

当時のY校長は、特殊教育に普通学級以上に配慮してくれた。最も得意とする所を伸ばしてやる

生徒のためとならば、躊躇する事なく「申し出」を許可され、生徒への経費も援助して下さった。こゝな恵まれた状況で、日先生に歩でも近づくよう実践してみたが、中学生は三ヶ年が勝負。普通学級「つとめて止むな」は実に名言

それなればこそ、彼等の特性を活かして、個性を生かした学校生活に一層力を入れた。何でも生徒にやらせてみる。その中で生徒の最も得意とする所を伸ばしてやる

普通学級の生徒が希望するような会社に入りたがる。また、私学にしても同様である。私には荷が重すぎて、精も根もつきはててしまひそうになった。

〇〇校に、特殊学級の生徒が通うようになったら、次年度には、普通学級の生徒達は△△校に志願を変更することになるだろう」という言葉も、私の耳に入った。そこで、やむなく特殊の生徒達をその△△校へ入学させた。その時のM子さんも、高卒コースに乗って現在「日本電装」に勤めている。

I子さんも、普通学級の卒業

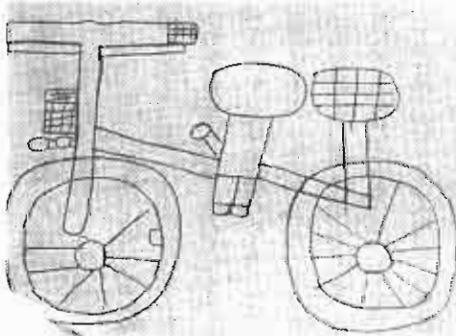
生が入社する会社に入り、八年間勤めたそうだ。この度、恵まれて、有名な会社に勤務されている方の所へ嫁いだそうである。また、小四の時から登校拒否をくり返してきたE君も、気に入った仕事場で八ヶ年無欠席で働いているとの事だ。A子さんも五年間無欠席で働いていると聞く。折にふれ、時にふれては当時の生徒を想い出す事

情緒学級五名、精薄学級五名、身体虚弱学級三名の計十三人に對して、三教室が与えられ、教師が四名。その上、校長の特別な配慮があり、生徒も喜んで学んで来た。環境もよし、理解もあり、終り良ければ総てよし。とも言えるが、教育はしよ

と「つとめて止むな」に尽き

と思う。

が多くなった昨今でもある。



↑自転車 六ッ美中3年  
↓キャンプファイアー 城北中3年



## 子ども作品展

がくげい会 六名小3年



↑せつぶん 広幡小6年



⇒カメ 美合小5年

